

## 進路先（一般企業・福祉サービス事業所・学校）へのアンケート

### 1 本人の勤務態度について、良いと思われるのはどんな点ですか？

一般企業から	福祉サービス事業所・進学先の学校から
・働く意欲がある (21) 12%	・挨拶・返事が良い (83) 22%
・遅刻・欠勤がない (19) 11%	・身だしなみ (66) 18%
・真面目・誠実・素直 (18) 11%	・遅刻・欠勤がない (50) 14%
・指示を理解できる (17) 10%	・働く意欲/言葉遣い/真面目・誠実・素直/協力/質問・報告等 (各 12~23)
・挨拶・返事/言葉遣い/身だしなみ/協力/質問・報告等 (各 10~13)	

⇒一般就労の卒業生は、「働く意欲があり、遅刻・欠勤がなく真面目に働いている」点が高く評価されている。また、それ以外の項目においても、全体的に高評価である。

⇒福祉的就労の卒業生は、「挨拶・返事」「身だしなみ」「遅刻・欠勤がない」の3項目が高評価で、それ以外の項目は全体的に低めの評価であった。

### 2 本人の勤務態度について、課題と思われるのはどんな点ですか？

一般企業から	福祉サービス事業所・進学先の学校から
・挨拶、返事ができない、声が小さい (13) 33%	・挨拶、返事ができない、声が小さい (14) 19%
・明るさ、元気がない (4) 10%	・仕事が遅い (7) 10%
・遅刻・欠勤がある (3) 8%	・質問、確認ができない (6) 8%
(遅刻したときに、「すみません」の一言がない)	・その他 (12) 17%
・仕事が遅い (3) 8%	【記述】
・その他 (4)	自分の意に沿わないことがあるとパニックになる
【記述】	いらいらしたときの気持ちの切り替え
指示を理解しているのかが分かりにくい	気分にもうがあり、態度に出してしまう
指示を出さないと、迷ってしまう	小さいことを気にして不安定になる
焦りが言葉遣いや態度に出してしまう	仕事内容に対する不満を言ってしまう
だらだらしている場面がある	気持ちの浮き沈みがあり、他人に当たってしまう
	周囲の人に対しての対応が厳しい
	気分が乗らないと能力を発揮できない 等

⇒一般就労、福祉的就労ともに、「挨拶・返事ができない、声が小さい」が一番多く、課題として挙げられている。

⇒福祉サービス事業所からは、その他の課題として、「自己コントロール」に関する記述が多くあった。

### 3 在学中に身に付けてほしい力は何ですか？

一般企業から	福祉サービス事業所・進学先の学校から
・コミュニケーション (17)	・働く意欲、態度や姿勢 (24)
・働く意欲、態度や姿勢 (14)	・コミュニケーション (24)
・指示理解、仕事の正確性や速さ (11)	・働くための体力 (14)
	・指示理解、仕事の正確性や速さ (10)
	・その他 (生活面等) (11)

⇒一般就労、福祉的就労ともに、特に「働く意欲、態度や姿勢」「コミュニケーション」の2項目が身に付けてほしい力として求められている。

#### ○働く意欲、態度や姿勢に関する記述

- ・意欲があれば、指示の理解や仕事の速さなどは少しずつ身に付いていく
- ・生活費を稼ぐことも大事だが、働くことの意味や目的などモチベーションを上げられるやりがいを感じられるような想像力がある利用者さんは粘り強い
- ・やる気があれば、いろいろな方法で支援できる
- ・苦手な作業であっても仕事として取り組む意識や姿勢が必要

#### ○コミュニケーションに関する記述

- ・元気よく、自分から挨拶
- ・分からないことは聞く
- ・相手に分かるように伝える力（トラブル発生時等）
- ・休憩時間に同僚と会話ができる
- ・他者とコミュニケーションを取りながら協力して行う（自分だけ早くできれば良いではない）
- ・「相手の価値観に共感すること」が必要
- ・特定の人と距離感が近いので、在学中に学んでほしい

⇒福祉サービス事業所からは、生活面に関するスキルや正しい習慣を身に付けてほしいという以下のような記述が多くあった。

生活リズム/遅刻/時間を守る/身だしなみ/金銭管理/ハンカチ・ティッシュの持参/体調管理（病院受診が必要なのか、自宅で様子観察程度なのか、仕事ができる程度の体調不良なのかの判断）

#### 4 貴社の障がい者雇用について、今後どのようなお考えをお持ちですか？ ※一般企業のみへの質問

- ・障がい者雇用を増やしたい（9）
- ・現状のままで、障がい者雇用を増やす予定はない（12）
- ・その他（6）  
未定だが、状況次第で増やす可能性あり/良い人材がいれば可能性あり/現在雇用している人（本校卒業生）のような人材であれば増員も検討したい/障がいがあるない関係なく、働く意欲がある人を雇用したい 等

#### 分析とまとめ

- ・働く環境や職種、理由等、様々であるが、一般就労、福祉的就労や進学ともに、求められるものは、コミュニケーション能力や働く意欲・態度であることが、改めてこのアンケート結果から再確認することができた。進路先へのアンケートの項目は、本校のチェックリストを元に作成している。チェックリストは、4つの領域（意欲・態度、働く力、コミュニケーション、生活する力）から構成されており、本校が進めている教育活動と進路先の企業や福祉サービス事業所等が求めているものは合致しているといえる。
- ・今回のアンケートでは、「挨拶、返事ができない、声が小さい」が本校卒業生の課題として非常に多く挙げられている。一方で、福祉サービス事業所からは、「挨拶、返事ができる」という高評価も多くあり、学校と似た環境、決まった場面での挨拶であれば身に付いているが、状況に合わせた挨拶ができていない可能性もある。いづれにしても、一般企業であっても福祉サービス事業所・進学先であっても、挨拶、返事は円滑な人間関係のための第一歩として重要視されていることが明確に示されたといえるのではないかと。また、福祉サービス事業所からは、不安定になる、気持ちの切り替えができないなどの「自己コントロールに関すること」、「基本的な生活習慣に関すること」が課題として挙げられており、今後の指導につなげていく必要がある。
- ・職業学科の本校としては、どのような就業形態であれ「働く」という目標に向かって教育活動を進めるとともに、進路希望を実現するためにも、一般就労、福祉的就労等からそれぞれに求められることをより細かく把握し、個に応じた効果的な指導につなげていく必要がある。
- ・今回のアンケートでは対象外となっている、就労移行支援事業所や職業訓練校から就労につながった卒業生の事例などについても共有できると、今後の進路指導に生かすことができるのではないかと。